

恩納村瀬良垣方言の動詞活用についての覚え書

Memoir on the verb conjugation of the Serakaki Dialect of Onna Village

西 岡 敏

Satoshi NISHIOKA

1. 恩納村瀬良垣方言の特徴

まず、瀬良垣方言の言語的特徴について概略する^(注1)。なお、[と]は、アクセント記号である。

① 「す」「つ」「ず(づ)」がイ段化せずに元のままの傾向にある

次のような用例がある。

[su: (巢) [ma:]tsu (松) [mimidzu (蚯蚓)

ただし、[ʃi]ra (顔) のように、イ段化している例もあったりする。

② ts (つ) と ʒ (ちゅ) などの音韻的対立はない

例えば、[ma:]tsu (松) は、[ma:]ʃu と発音されることもある。

③ m の喉頭化音、すなわち /ʔm / がある

[ʔmi:] (海) [ʔmu:] (芋) [ʔmeNsooree (いらっしゃい)

④ 第2音節に短母音の o が現れることがある

[kiboʃi (煙) [ko:]rogusu (とうがらし) [sako]haN (もろい)

⑤ アクセント類別語彙の2音節3・4・5類は、第1音節が伸びて現れる傾向にある

[mi:]mi (耳・3類) [ma:]tsu (松・4類) [ʔa:]mi (雨・5類)

ただし、[ku]mu (雲・3類)、[ha]ʃi (針・4類)、[ʔa]ʃi (汗・5類) のように、第1音節が伸びない例もあったりする。

⑥アクセントのパターンは、高平型と下降型の2型アクセントである

名詞 1 音節語	1・2類が高平型	3類が下降型
1 音節 1 類	例 [ki:nu (毛が ^s)	高平型
1 音節 2 類	例 [na:nu (名が ^s)	高平型
1 音節 3 類	例 [ki:]nu (木が ^s)	下降型
名詞 2 音節語	1・2類が高平型	3・4・5類が下降型
2 音節 1 類	例 [midzunu (水が ^s)	高平型
2 音節 2 類	例 [ʔutunu (音が ^s)	高平型
2 音節 3 類	例 [kumu:]nu (雲が ^s)	下降型 (第1音節 短)
	[mi:]minu (耳が ^s)	下降型 (第1音節 長)
2 音節 4 類	例 [hai:]nu (針が ^s)	下降型 (第1音節 短)
	[ma:]tsunu (松が ^s)	下降型 (第1音節 長)
2 音節 5 類	例 [ʔa:]nu (汗が ^s)	下降型 (第1音節 短)
	[ʔa:]minu (雨が ^s)	下降型 (第1音節 長)

⑦動詞活用の一部、準体助詞などに s 音の h 音化が見られる

[ʔiɕa]haN (出さない) [ʔiɕa]ha (出そう) [magja:]huga (大きいのが^s)

⑧連体形は -nu の形である

[numi]nu [midzu (飲む水)] [kami]nu [ku]tu (食べること)

⑨形容詞の活用語尾も基本的には -haN であるが、重子音の -ssaN は h 音化しない

[ʔamahaN (甘い)] [ʔassaN (浅い)]

⑩指示代名詞の連体修飾の形は、kunu などではなく、kuri と主格と同じ形と言う

[kuri huN (この本)] [ʔari huN (あの本)]

2. 瀬良垣方言の動詞活用について

首里方言の分析では、『世界言語概説』の「附. 琉球語」(服部四郎・金城朝永 1955) や『沖縄語辞典』(国立国語研究所編 1963) にあるように、基本語幹と連用語

幹と音便語幹の3語幹で分けるのが伝統的な分類である。基本語幹と連用語幹が分かれるのは、首里方言でいわゆる口蓋化（破擦音化）が発達しているためであるが、恩納村瀬良垣方言では、動詞の活用において口蓋化があまり起こっていない。首里方言で連用語幹から派生する形のうち、瀬良垣方言においてそれらに対応する形は、丁寧形（-abiiN が付く形）においてのみ、いくつかの語幹末子音に口蓋化（破擦音化）が起こっている。以下、語幹末子音ごとに例を挙げる。なお、以下では [ɸ][ɸ][ɸ] の発音をそれぞれ c, z, si で略記する。

基本語幹から作られる形は、否定形（～ない。）、志向形（～よう。）、願望形（～したい。）、終止形（～する。）、連体形（～する～）、已然形強調形（～ればこそである。）、命令形（～しろ。）である。連用語幹から作られる形は、丁寧形（～ます。）である。音便語幹から作られる形は、過去形（～た。）、テ形（～て。）、継続形（～している。）、結果形（～してある。）である。以上、12形を掲げた。ただし、終止形が^seeN (eN) で終わる場合のうちの一部は不規則変化になる（以下、x ix、x x）。

i. 語根末子音 -kɿ カ行ɿ

例：[kaa]kiN（書く） アクセントは下降型

①基本語幹をもつ形（語幹末子音が^s-k）

kaak-aN（書かない）、kaak-a（書こう）、kaak-i-busaN（書きたい）、kaak-iN（書く）、kak-inu（書く～）、kaak-iwaru=jaru（書けばこそである）、kaak-ee（書け）。

②連用語幹をもつ形（語幹末子音が^s-c）

kaac-abiiN（書きます）。

③音便語幹をもつ形（音便接辞が^s-c）

kaa-caN（書いた）、kaa-ci（書いて）、kaa-cuN（書いている）、kaa-ceN（書いてある）。

ii. 語根末子音 -s / -h サ行／ハ行

例：[ɸiza]siN 出す アクセントは下降型

①基本語幹をもつ形（語幹末子音が^s-s または^s-h） ※後続母音が^s-a のときは s → h

ɸizah-aN（出さない）、ɸizah-a（出そう）、ɸizas-i-busaN（出したい）、ɸizas-iN（出す）、ɸizas-inu（出す～）、ɸizas-iwaru=jaru（出せばこそである）、ɸizas-ee（出せ）。

②連用語幹をもつ形（語幹末子音が^s-s）

ʔizas-abiiN (出します)。

③音便語幹をもつ形 (音便接辞が c-)

ʔiza-caN (出した)、ʔiza-ci (出して)、ʔiza-cuN (出している)、ʔiza-ceN (出してある)。

iii. 語根末子音 -tt ッタ行

例: [mut]taN 持つ アクセントは下降型

①基本語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-tt)

mutt-aN (持たない)、mutt-a (持とう)、mutt-i-busaN (持ちたい)、mutt-iN (持つ)、mutt-inu (持つ〜)、mutt-iwaru=jaru (持てばこそである)、mutt-ee (持て)。

②連用語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-c)

muc-abiiN (持ちます)。

③音便語幹をもつ形 (音便接辞が cc-)

mu-ccaN (持った)、mu-cci (持って)、mu-ccuN (持っている)、mu-cceN (持ってある)。

iv. 語根末子音 -n ナ行

例: [siniN 死ぬ アクセントは高平型

①基本語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-n)

sin-aN (死なない)、sin-a (死のう)、sin-i-busaN (死にたい)、sin-iN (死ぬ)、sin-inu (死ぬ〜)、sin-iwaru=jaru (死ねばこそである)、sin-ee (死ね)。

②連用語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-n) 基本語幹の語幹末子音と同形。

sin-abiiN (死にます)。

③音便語幹をもつ形 (音便接辞が z-)

si-zaN (死んだ)、si-zi (死んで)、si-zuN (死んでいる)、si-zeN (死んである)。

v. 語根末子音 -m マ行

例: [numu]N アクセントは下降型

①基本語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-m)

num-aN (飲まない)、num-a (飲もう)。num-i-busaN (飲みたい)、num-iN (飲む)、num-inu (飲む〜)、num-iwaru=jaru (飲めばこそである)、num-ee (飲め)。

②連用語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-m) 基本語幹の語幹末子音と同形。

num-abiiN (飲みます)。

③音便語幹をもつ形 (音便接辞が d-)

nu-daN (飲んだ)、nu-di (飲んで)、nu-duN (飲んでいる)、nu-deN (飲んである)。

vi. 語根末子音 -r1 ラ行 1

例: [koojiN (買う) アクセントは高平型

①基本語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-r あるいは -j) ※後続母音が^s-i のときは r → j
koo-r-aN (買わない)、koo-r-a (買おう)、kooji-i-busaN (買いたい)、kooji-iN (買う)、
kooji-inu (買う～) koo-r-uwaru=jaru (買えばこそである)^(註2)、koo-r-ee (買え)。

②連用語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-j)

kooji-abiiN (買います)。

③音便語幹をもつ形 (音便接辞が t-)

koo-taN (買った)、koo-ti (買って)、koo-tuN (買っている)、koo-teN (買ってある)。

vii. 語幹末子音 -r2 ラ行 2

例: [jijiN (座る)^(註3) アクセントは高平型

①基本語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-r あるいは -j) ※後続母音が^s-i のときは r → j
jir-aN (座らない)、jir-a (座ろう)、jiji-i-busaN (座りたい)、jiji-iN (座る)、jiji-inu (座
る～)、jir-uwaru=jaru (座ればこそである)、jir-ee (座れ)。

②連用語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-j)

jiji-abiiN (座ります)。

③音便語幹をもつ形 (音便接辞が c-)

ji-caN (座った)、ji-ci (座って)、ji-cuN (座っている)、ji-ceN (座ってある)。

viii. 語幹末子音 -r3 ラ行 3

例: [ʔiriN (入れる) アクセントは高平型

①基本語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-r あるいは -j) ※後続母音が^s-i のときは r → j
ʔirir-aN (入れない)、ʔirir-a (入れよう)、ʔiri-busaN (入れたい)、ʔiri-N^(註4) (入れる)、
ʔiri-nu (入れる～)、ʔirir-uwaru=jaru (入れればこそである)、ʔirir-ee (入れよ)。

②連用語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-j)

ʔirij-abiiN (入れます)。

③音便語幹をもつ形 (音便接辞が tt-)

ʔit-taN (入れた)、ʔit-ti (入れて)、ʔit-tuN (入れている)、ʔit-teN (入れてある)。

ix. 語幹末子音 -r4 ラ行 4

例: [cii]N (切る) アクセントは下降型

①基本語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-r あるいは .j) ※後続母音が^s-i のときは r → j
ciir-aN (切らない)、ciir-a (切ろう)、cii-busaN^(註5) (切りたい)、cii-N (切る)、cii-nu (切る～)、ciir-uwaru=jaru (切ればこそである)、ciir-ee (切れ)。

②連用語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-j)

cij-abiiN (切ります)。

③音便語幹をもつ形 (音便接辞が^s cc-)

cic-caN (切った)、cic-ci (切って)、cic-cuN (切っている)、cic-ceN (切ってある)。

x. 語根末子音 -g ガ行

例: [kuu]guN (漕ぐ) アクセントは下降型

①基本語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-g)

kuug-aN (漕がない)、kuug-a (漕ごう)、kuug-i-busaN (漕ぎたい)、kuug-iN (漕ぐ)、kuug-inu (漕ぐ～)、kuug-iwaru=jaru (漕げばこそである)、kuug-ee (漕げ)。

②連用語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-z)

kuuz-abiiN (漕ぎます)。

③音便語幹をもつ形 (音便接辞が^s z-)

kuu-zaN (漕いだ)、kuu-zi (漕いで)、kuu-zuN (漕いでいる)、kuu-zeN (漕いである)。

x i. 語根末子音 -d ダ行

例: [nn]diN (見る) アクセントは下降型

①基本語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-d)

nnd-aN (見ない)、nnd-a (見よう)、nnd-i-busaN (見たい)、nnd-iN (見る)、nnd-inu (見る～)。nnd-iwaru=jaru (見ればこそである)、nnd-ee (見ろ)。

②連用語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-z)

nnz-abiiN (見ます)。

③音便語幹をもつ形 (音便接辞が c-)

nn-caN (見た)。nn-ci (見て)。nn-cuN (見ている)。nn-ceN (見てある)。

x ii. 語根末子音 -b1 バ行 1

例: [tubiN (飛ぶ) アクセントは高平型

①基本語幹をもつ形 (語幹末子音が^g-b)

tub-aN (飛ばない)、tub-a (飛ばう)、tub-i-busaN (飛びたい)、tub-iN (飛ぶ)、tub-inu (飛ぶ～)、tub-iwaru=jaru (飛ばばこそである)、tub-ee (飛ば)。

②連用語幹をもつ形 (語幹末子音が^g-b) 基本語幹の語幹末子音と同形。

tub-abiiN (飛びます)。

③音便語幹をもつ形 (音便接辞が d-)

tu-daN (飛んだ)、tu-di (飛んで)、tu-duN (飛んでいる)、tu-deN (飛んである)。

x iii. 語根末子音 -b2 バ行 2

例: [kaN]biN (被る) アクセントは下降型

①基本語幹をもつ形 (語幹末子音が^g-b)

kaNb-aN (被らない)、kaNb-a (被ろう)、kaNb-i-busaN (被りたい)、kaNb-iN (被る)、kaNb-inu (被る～)、kaNb-iwaru=jaru (被ればこそである)、kaNb-ee (被れ)。

②連用語幹をもつ形 (語幹末子音が^g-z)

kaNz-abiiN (被ります)。

③音便語幹をもつ形 (音便接辞が t-)

kaN-taN (被った)、kaN-ti (被って)、kaN-tuN (被っている)、kaN-teN (被ってある)。

x iv. 語根末子音 -b3 バ行 3

例: [kuNbiN (括る) アクセントは高平型

①基本語幹をもつ形 (語幹末子音が^g-b)

kuNb-aN (括らない)、kuNb-a (括ろう)、kuNb-i-busaN (括りたい)、kuNb-iN (括る)、kuNb-inu (括る～)、kuNb-iwaru=jaru (括ればこそである)、kuNb-ee (括れ)。

②連用語幹をもつ形 (語幹末子音が^g-b) 基本語幹の語幹末子音と同形。

kuNb-abiiN (括ります)。

③音便語幹をもつ形 (音便接辞が c-)

kuN-caN (括った)、kuN-ci (括って)、kuN-cuN (括っている)、kuN-ceN (括ってある)。

x v. 語根子音 -s2 / -h2 サ変: する

例: [siN (する) アクセントは高平型

①基本語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-s または -h) ※後続母音が^s-a のときは s → h
h-aN (しない)、haa (しよう)、sii-busaN (したい)、siN (する)、sinu (する～)、
siiwaru=jaru (すればこそである)、s-ee (しろ)。

②連用語幹をもつ形 (語幹子音が s)

s-abiiN (します)。

③音便語幹をもつ形 (語幹子音が s-)

saN (した)、sii (して)、suN (している)、seN (してある)。

x vi. カ変: 来る

例: [kuN (来る) アクセントは下降型

①基本語幹をもつ形 (語幹が^sku- を含む)

kur-aN (来ない)、kur-a (来よう)、kuu-busaN (来たい)、ku-N (来る)、ku-nu (来る～)、
kur-uwaru=jaru (来ればこそである)、kwaa (来い)。

②連用語幹をもつ形 (語幹子音が c-)

c-aabiiN (来ます)。

③音便語幹をもつ形 (語幹子音が c-)

caN (来た)、cii (来て)、cuN (来ている)、ceN (来てある)。

x vii. 語根末子音 -k2 カ行2

例: [ʔikiN (行く) アクセントは高平型

①基本語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-k)

ʔik-aN (行かない)、ʔik-a (行こう)、ʔik-i-busaN (行きたい)、ʔik-iN (行く)、ʔik-inu (行
く～)、ʔik-iwaru=jaru (行けばこそである)、ʔik-ee (行け)。

②連用語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-c)

ʔic-abiiN (行きます)。

③音便語幹をもつ形 (音便接辞が z-)

ʔi-zaN (行った)、ʔi-zi (行って)、ʔi-zuN (行っている)、ʔi-zeN (行ってある)。

x viii a. ラ変 1 : 有る

例 : [ʔa]N (有る) アクセントは下降型

①基本語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-r ほか) ※後続母音が^s-i のときは r → j

ʔar-aN (～ではない)、ʔaj-i-busaN (有りたい)、ʔa-N (有る)、ʔa-nu (有る～)、
ʔar-uwaru=jaru (有ればこそである)。

②連用語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-j)

ʔaj-abiiN (有ります)。

③音便語幹をもつ形 (音便接辞が t-)

ʔaa-taN (有った)、ʔaa-ti (有って)。

x viii b. ラ変 2 : 居る (おる)

例 : [wu]N (居る) アクセントは高平型

①基本語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-r ほか) ※後続母音が^s-i のときは r → j

wur-aN (居らない)、wur-a (居ろう)、wuj-i-buaN (居りたい)、wu-N (居る)、wu-nu (居
る～)、wur-a (居ろう)、wur-uwaru=jaru (居ればこそである)、wur-ee (居れ)。

②連用語幹をもつ形 (語幹末子音が^s-j)

wuj-abiiN (居ります)。

③音便語幹をもつ形 (音便接辞が t-)

wu-taN (居った)^(注6)。

x ix. 語幹末 -a / -ee 母音

例 : [kwee]N (食らう) アクセントは高平型

①基本語幹をもつ形 (語幹末が^s-a)

kwa-aN (食らわない)、kwa-a (食らおう)。

②連用語幹をもつ形 (語幹末が^s-ee)^(注7)

kwee-busaN (食らいたい)、kwee-N (食らう)、kwee-nu (食らう～)、kwee-waru=jaru (食

らえばこそである)、kwee (食らえ)。

③音便語幹をもつ形 (音便接辞が t-)

kwaa-taN (食らった)、kwaa-ti (食らって)、kwaa-tuN (食らっている)、kwaa-teN (食らってある)。

x x. 尊敬動詞 [ʔmeNseN, ʔmee]N (いらっしゃる)

例 : [ʔmee]N (いらっしゃる)

①基本語幹をもつ形 (語幹末が oor-)

ʔmoor-aN (いらっしゃらない)、ʔmoor-iwaru=jaru (いらっしゃればこそである)、
ʔmoor-ee いらっしゃい (いらっしゃい)

②連用語幹をもつ形 (語幹末が ee-)

ʔmee-biiN (いらっしゃいます)、ʔmee-busaN (いらっしゃりたい)、ʔmee-N (いらっしゃる)、
ʔmee-nu (いらっしゃる～)。

③音便語幹をもつ形 (音便接辞が c-)

ʔmoo-caN^(註8) (いらっしゃった)、ʔmoo-ci (いらっしゃって)、ʔmoo-cuN (いらっしゃっている)、
ʔmoo-ceN (いらっしゃってある)

3. 動詞活用のおまわり

いわゆる辞書形 (終止形) は、ほほみな ~iN という形をしているが、vi. の一部 (kameN 「探す」など) のほか、「食らう」は kweeN、「ある」は ʔaN、「居る」は wuN、「いらっしゃる」は ʔmeNseN や ʔmeeN (前者のほうが敬意が高い) など、語尾が ~iN で終わらない形もある。

語根末子音 -s の動詞 (サ行動詞) は、否定形 (~しない) や志向形 (~しよう) のとき、h 音化している。これは、可能受身接辞 -aiN が付くときにも起こる^(註9)。

先述の通り、丁寧の助動詞 -abiiN が付くところのみ、語根末子音の口蓋化が起こっているものがある。本稿では、丁寧の助動詞が付くときの前要素を基本として連用語幹を立てていることになる。尊敬動詞 ʔmeNseN (いらっしゃる) や ʔmeeN (いらっしゃる) では、基本語幹と連用語幹が、それぞれ ʔmeNsoor- (基本語幹) と ʔmeNsee- (連用語幹)、ʔmoor- (基本語幹) と ʔmee- (連用語幹) となり、母音の違いによって両語幹が区別される形になる。

なお、瀬良垣方言でも、多くの北部方言と同じように、名詞に続くときの形（いわゆる連体形）と、係助詞 ru が来たときの結びの形（ru 結び形）は異なる。すなわち、kam-inu kutu（食べる こと）に対して、ʔjuu-ru kam-iru（魚をぞ食べる）となる。また、第2過去形（～しよった）の形もふつうにある。

動詞の活用の種類においては、強変化系（四段系）と弱変化系（一段系）の区別はほぼ無くなっている。弱変化系も（弱変化系は）、終止形（および連用形）が [ʔagiN（上げる・高平型）、[sagiN（下げる・下降型）] のように、語末母音が ii から i に短くなる傾向にある（強変化系でも「切る」は母音が短縮化している）。この母音の短縮化傾向にアクセントの別は関係がない。

4. 下降型アクセントと音節の伸長

下降型アクセントの動詞の場合、第1音節の母音が伸びたり（長音化）、第2音節の頭子音が重子音になったり（促音化）するものが多い。

①第1音節の母音が伸びる例（下降型）

[maa]kiN（蒔く・下降型） [ʔaa]miN（編む・下降型） [kaa]kiN（書く・下降型）

②第2音節の頭子音が重子音となる例（下降型）

[ʔut]tiN（打つ・下降型） [mat]tiN（待つ・下降型） [mut]tiN（持つ・下降型）

ただし、[kamiN（食べる）、[kamaN（食べない）、[kadaN（食べた）] のように長くならない下降型アクセントの動詞もあるし、[tuiN（取る）、[turaN（取らない）、[tut]taN（取った）] のように、音便語幹だけ長く重子音となる動詞の例もある。

また、下降型アクセントのラ行動詞（基本形が3拍）の特徴として、辞書形（終止形）の中では母音が短くても、他の基本語幹、音便語幹の形になると、母音が長くなることがある^(注10)。これは母音が短いままの高平型アクセントの動詞と著しい対照をなしている^(注11)。

[naiN（生る・下降型）

[naiN（鳴る・高平型）

[naa]raN（生らない・下降型）長音化

[naraN（鳴らない・高平型）

[naa]taN（生った・下降型）長音化

[nataN（鳴った・高平型）

5. 最後に 一丁寧形のみ連用語幹から一

本稿では、基本語幹と連用語幹の語幹末子音が同形になるグループについて、丁寧形は連用語幹から作る形としているが、その他は、すべて基本語幹から作る形として整理している。これは丁寧形のみで連用語幹に特徴的な口蓋化（破擦音化）が現れて、他の形式と異なることが多いためである。首里方言を基準にして、基本語幹から作る形と連用語幹から作る形を分ける方法も考えられるけれども、本稿ではその方法は採らなかった。

いくつかのグループは基本語幹の語幹末子音が後続母音によって次のように形態音韻変化するとした。

s → h / _a (ii, xv)

r → j / _i (vi, vii, viii, ix, xviii a, xviii b)

注

(注1) 本稿は、「恩納村誌」での恩納村・瀬良垣調査をもとにしている。また、調査には、沖縄言語研究センター『琉球列島の言語の研究』の語彙調査票および宮古言語地理学科研（2010年度～2012年度）で使用した動詞調査票を利用している。おもな話者は、1928年（昭和3年）生まれの男性の方と、1936年（昭和11年）生まれの男性の方である。話者の皆さん、字瀬良垣の区長さん、恩納村誌編さん室のスタッフの皆さんにはいつも大変お世話になっている。また、本稿は沖縄言語研究センターの定例研究会（2013年12月7日）で口頭発表したものを書き改めたものである。

(注2) 已然形強調形は、*koor-iwaru=jaru* という、語幹末子音直後の母音が *i* の語形もある。なお、*vi* のグループに所属する動詞は、*[kame]N*（探す）、*[bap]peN*（間違う）など、*-eN* ないしは、*-eeN* で終わる動詞の一部を含む。

(注3) *?ij-iN*（言う）とは語頭のみで音韻対立する。アクセントも高平型で同じである。

(注4) *?irij-i* から母音の短縮で *?iri* となっている。

(注5) これも cij-i から母音の短縮で、cii となっている。

(注6) 第1過去形(居った)は wutaN であるが、第2過去形(居りよった)は wuutaN である。「居って」には、wuuti ないしは wuiti という。wuuteN という結果形もある。

(注7) 丁寧語(食らいます)は意味的に不使用とのことである(× kweejabiiN)。

(注8) 動作性の「いらっしゃった」(「行った」「来た」の尊敬語)は、?moo-caN であるが、状態性の「いらっしゃった」(「居た」の尊敬語)は、?mee-taN である。

(注9) 使役接辞には、-asiN と -asimiN の2形があるが、サ行動詞の使役接辞は、他の方言と同じく、-asimiN のみが付くので、s の h 音化はここでは当たらない。

(注10) [sui]N (剃る)・[su:]taN (剃った)、[mui]N (漏る)・[mu:]taN (漏った) など、他にも用例がいくつかある。

(注11) 上村幸雄によるアクセント型の用語で言うと、瀬良垣方言の高平型アクセントは acute 型、下降型アクセントは grave 型に歴史的には由来する。瀬良垣方言における第1音節の長音化には、grave 型、すなわち、「特定の音節を低く発音することにより多くの調音上の努力が払われる型」(上村 1997: 341) の特徴が関与していると考えられる。北京語四声の第3声にも比される grave 型アクセントであるが、瀬良垣方言の場合、grave 型の段階を経て長音化された部分は、高く発音される部分になっている。

参考文献

上村幸雄 1997[1992] 「琉球列島の言語(総説)」『言語学大辞典セレクション 日本列島の言語』三省堂: pp.311-354

国立国語研究所[編] 1963 『沖縄語辞典』大蔵省印刷局

島袋幸子 2006 「恩納村の方言」『名護市史本編・10 言語』名護市史編さん委員

会 名護市役所：pp.262-269（2章13節）

服部四郎・金城朝永 1955 「附. 琉球語」『世界言語概説 下巻』 研究社：pp.328-353

付記

本稿の出稿後、再び瀬良垣方言を調査する機会を得た。その際、いわゆる連用形から派生される「～する人」の形を話者の方々に聞いたとき、基本語幹から作られる形と連用語幹から作られる形の双方が許容された。

hatarakiN（働く）	hatarakaa（働き者、基本語幹からの派生形）
	hataracaa（働き者、連用語幹からの派生形）
sikiN（好く、この辞書形のみでは言わない）	
	?asubi-zikaa（遊び好きな人、基本語幹からの派生形）
	?asubi-zicaa（遊び好きな人、連用語幹からの派生形）

また、viに属する -eN ないしは -eeN で終わる動詞について、「～しに行く」という形を聞いたところ、母音 i が挿入される形とされない形の双方が許容された。

?abeN（どなる）	?abe-i-ga ?ikiN（どなりに行く、i が挿入される形）
	?abe-ga ?ikiN（どなりに行く、i が挿入されない形）
tumeeN（探す）	tumee-i-ga ?ikiN（探しに行く、i が挿入される形）
	tumee-ga ?ikiN（探しに行く、i が挿入されない形）